

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

パート1：彼らの奉仕のための場所、メッセージ、賜物、そして恵み

デイリー・ジーザス・ニュース #103

MT 10.1-8 (並行テキスト： マルコ6.7; ルカ9.1-2)

1 MTイエスは十二弟子を呼び寄せ、汚れた霊を追い出し、あらゆる病気やわずらいを癒す力と権威を彼らにお与えになった。そして、神の国を宣べ伝え、病人を癒し続けるために、彼らを遣わされた。

2 マタイ12 使徒の名前は次のとおりである。第一に、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、3 フィリポとバルトロマイ、トマスと徴税人マタイ、アルファイの子ヤコブとタダイ、4 熱心党のシモンとイエスを裏切ったイスカリオテのユダである。

を二人ずつ遣わし、次のような指示を与えた。

「私はあなた方に命じます。異邦人の中へ行ってはならない。また、サマリア人の町々には入ってはならない。6むしろ、イスラエルの失われた羊のところへ行きなさい。7行って、『天の御国は近づいた』と宣べ伝えなさい。

8 わたしは命じる。病人を癒し、死人を生き返らせ、重い皮膚病にかかっている人を清め、悪霊を追い出しなさい。あなたがたはただで受けたのだから、ただで与えなさい。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルカ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています**。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	おそらくガリラヤのカペナウム
タイムライン	回ツアー直前)
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	H. イエスはガリラヤへの第三巡回の前に十二使徒を整える
タイトル	パート1：彼らの奉仕のための場所、メッセージ、賜物、そして恵み

コメント：

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

イエスはガリラヤへの第二巡回を終えるにあたり、弟子たちに、収穫の畑で働く人々が自分と共に働くように祈るよう命じました。巡回巡回中の最後の町々を数週間訪問する間、弟子たちは祈る時間を得ました。カペナウムの拠点に戻った後、イエスは次に十二使徒に、彼ら自身の祈りの答えとなるように指示しました。これが神の働きです。神は私たちの祈りを通して私たちを御心と調和させ、そして力強い聖霊によって私たちの中で、そして私たちを通して働くことによって、私たちの祈りを成し遂げます。

イエスに約1年半従った後、イエスは使徒たちに最初の宣教の任務を与えました。これは、イエスの教え方における模範の重要性を示しています。イエスは、父なる神との関係を築き、毎日、一日中宣教を行う方法を模範として示しました。弟子たちは毎日少なくとも10時間、イエスを観察し、イエスの行いについて助言や説明を受けていました。彼らは、イエスが様々な人々や状況にどのように対応してきたかを見てきました。今、彼らには、同じようにして行き、行い、そして語る責任がありました。

マタイ10章には、イエスが使徒たちを二人ずつ遣わし、ガリラヤのすべての町や村を訪問させる前に行われた訓練のハイライトが記されています。その後、イエスはガリラヤへの3度目の、そして最後の巡回旅行で各地に到着されました。この巡回旅行は共同宣教であり、使徒たちはイエスが最後に訪れるそれぞれの地で「事前」の働きを行いました。

使徒たちは、イエスの宣教の模範に倣い、1年半以上もの間イエスの行いを見てきたように、同じことを語り、行いました。イエスはこの重要な訓練において宣教の基本原則を説き、その多くは使徒たちの生涯、そして私たちにも当てはまるものでした。

これらの節にあるイエスの使徒たちへの命令と指示の重要な4つの側面に注目しましょう。**第一に、イエスは使徒たちを遣わす前に、彼らの宣教の範囲を明確に定めました。**三度目の巡回旅行では、イエスは宣教の範囲をガリラヤの町や村に限定していました。そのため、使徒たちにも同じようにするように命じました。

ここで重要なのは、イエスが使徒たちに、ご自身が既に計画していた場所へ行くように命じたということです。使徒たちは、イエスが遣わされたあらゆる場所に必ず従ってくださることを確信していました。なんと心強いことでしょう！洗礼者ヨハネのように、使徒たちの役目は、あらゆる場所でイエスの到来、ひいては御国のために道を備えることでした。

宣教をガリラヤとユダヤ人に限定するという命令は、制限的に思えるかもしれませんが、しかし、この命令はイエスの第三巡回における使徒たちの宣教に特有のものであったことを忘れてはなりません。ここで重要なのは、神の主権的な指示の範囲内で宣教するという原則であり、この巡回においてガリラヤだけに特化していたということではありません。後にイエスは彼らに「**すべての国の人々を弟子とせよ**」と指示します。**第三巡回**において十二使徒が宣教をユダヤ人だけに限定するという従順さは、彼らが最終的に「**すべての国の人々を弟子とする**」ための備えとなったのです。これはすべて、イエス、が使徒たちのために立てた彼らのための特別な訓練と備えの計画の一部でした。

第二に、イエスは彼らに伝えるメッセージを与えました。「天の王国は近づいた。」これはイエスご自身のメッセージであり、彼らのメッセージではありませんでした。彼らはイエスの代表者として、イエスの

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

御名によってそのメッセージを宣べ伝えることになっていたのでした。イエスは万王の王であったため、ガリラヤに到着したと同時に神の国も到来していました。使徒たちが訪れたすべての町や村に、イエスは間もなく到来するはずでした。彼らは洗礼者ヨハネのように、人々をイエスの到来に備えさせ、彼らがイエスを自分たちの主であり救い主として信じ、受け入れるようにしなければなりませんでした。

イエスが彼らを霊的な賜物に基づいて宣教に遣わされたことも非常に重要です。イエスは彼らに、悪霊と病気に打ち勝つ力、そして説教する権威を「お与えになった」のです。これらは霊的な賜物であり、イエスの宣教において聖霊の油注ぎによって初めて示されたものです。使徒たちは、自らの主導権や能力ではなく、イエスの恵み深い賜物に従って働きを行うべきでした。イエスに従うすべての宣教は、イエスの主権的な霊的な賜物によって決定されます。

使徒たちは、イエスから、それぞれの霊的な賜物に応じて奉仕するという原則を学びました。彼らはこの原則を、自分たちが設立した教会に伝えました。ペテロは生涯の終わり近くにこう書いています。

「あなたがたはそれぞれ、受けた賜物を用いて、神の恵みの様々な素晴らしい形を忠実に守る者として、互いに仕えなさい。もし語るなら、神の御言葉を語る者として語りなさい。もし仕えるなら、神が与えてくださる力を尽くして仕えなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神がほめたたえられるためです。栄光と力が、世々限りなく神にありますように。アーメン。」ペトロの手紙一 4章10-11節

最後に、使徒たちはイエスの限りのない恵みに基づいて、イエスにおいて個人的に受け、経験したことを分かち合うことになっていました。「あなたは無償で受け取り続けてきました。ですから、無償で与え続けてください。」

神は愛するがゆえに、恵みに基づいて惜しみなく与えてくださる。それが、神の名において奉仕する僕たちにふさわしい唯一の態度である。真の奉仕はすべて恵みによるものであり、行いによるものではない。だからこそ、神の御前で誇る者はいない。使徒たちは、自分自身では奉仕するに値せず、また、自分たちから出た人々に何一つ差し出すこともできなかった。すべてはイエスから発し、イエスを通して、そして神の御国の目的のためにあったのだ。π

同様に、彼らが仕えた人々も、イエスから何かを受け取るに値しませんでした。すべてはイエスの恵みによるものでした。限りのない恵みこそが、イエスが説かれた奉仕の姿勢を決定づけるものです。この姿勢は、神の僕である私たちにプライドを遠ざけ、何の条件も期待もつけずにすべての人に仕えるよう促します。イエスは、愛の表現として仕えるよう彼らに教えたのです。

応用：

イエスは、私たちの宣教を決定し、導く領域（場所）、メッセージ、賜物、そして恵みをお選びになります。使徒たちと同じように、イエスはすべての弟子に、例外なくそうされます。

イエスはあなたにどんな霊的な賜物を与えましたか？

神は、あなたの賜物をどの場所に重点的に使うようにとあなたに指示しましたか。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

あなた自身の中で、またあなたが奉仕する人たちの中で、神の恵みがどのように働いているのを見てきましたか。

あなたはイエスがあなたのために計画しておられるとおりに、積極的に奉仕に携わっていますか？何かに気を取られていませんか？イエスの御名によって完全に奉仕するために、他に何をする必要がありますか？